

第21回湖北圏域水害・土砂災害に強い地域づくり協議会報告

日時：令和7年5月27日（火）10:00～12:00

場所：米原市役所 3階 会議室 3A・3B

参加者：協議会構成員

本協議会は、施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生するものへと意識を変革し、社会全体で洪水氾濫に備える「水防災意識社会」を再構築するため、多様な関係者が連携して、湖北圏域（長浜市、米原市）における洪水氾濫ならびに土砂災害による被害の軽減に資する取組を、総合的かつ一体的に推進するための協議を行う場として設置しています。

【主な議事】

- (1) 協議会規約の改定について了承された。
- (2) 湖北圏域の取組方針の改定について了承された。
- (3) 令和6年度の取組報告
 - 避難情報の発令時は切迫性を持った状況での情報提供が重要と意見があった。
 - 姉川ダムの洪水調節方式等運用方法や異常洪水時防災操作と避難の関係について、わかりやすい広報を検討する。
 - 要配慮者の避難に関する取組について、彦根地方气象台など各機関が引き続き連携して取り組んでいくことを確認した。
- (4) 【情報提供】
 - ① 令和6年度大雨時の米原市の対応状況について（滋賀県流域政策局、彦根地方气象台）
 - 彦根地方气象台からは、災害発生後に同様の災害が起こる可能性が高まっている場合や、応急復旧作業者が被害に合う可能性がある場合に、特定の緯度経度における気象情報の提供など、通常の防災メールよりも一歩進んだ情報提供を行うことが報告された。
 - ② 豪雨災害に関する意識についてのアンケート結果について（滋賀県流域政策局）
 - 全県的に避難の支障となっている事情として、避難困難者がいることや避難所での生活に抵抗があると回答しており、プライバシーやトイレの快適性を求める回答が多かった。
 - ③ 中小河川の「洪水浸水想定区域図」と「地先の安全度マップ」の公表について
(滋賀県流域政策局)
 - 令和7年度末に中小河川の「洪水浸水想定区域図」と「地先の安全度マップ」の更新版の公表を予定。令和8年度末までに各市町は水害ハザードマップを更新する必要がある。
 - ④ 滋賀県防災アプリの開発について（滋賀県流域政策局）
 - 避難訓練の評価機能については、今後の更新の際に検討する。
 - いざとなったときにアプリをはじめて使うことにならないよう、平常時から活用することが重要。

【議事内容】

1. 開会

■会長代理の滋賀県流域政策局 辻局長の挨拶

近年の気候変動の影響により水害が頻発化・激甚化しており、毎年のように全国各地で豪雨災害が発生している。昨年は、米原市伊吹山で、7月の1か月の間に3回の土砂流出が発生し、家屋や土木施設等で被害が生じた。幸い、人命被害はなかった。

その際、近畿地方整備局からは TEC-FORCE の派遣、気象台からは伊吹地区のきめ細やかな雨量予測データや観測データなどの提供があった。この場をお借りしてお礼申し上げる。

本協議会の取組方針では、自助と共助が最大限発揮されるよう自ら行動し、地域の防災力を高めることで、社会経済被害を最小化することを目指している。そのため、水害・土砂災害に強い地域づくりを目指し、これまでも委員の皆様には様々な取組を進めていただいているところである。

本日は、市・国・県の行政機関に加え、学識者の方にも御出席いただいている。水害・土砂災害の防止について皆様と共に考え、今後の取組につなげていきたい。



2. 質疑応答・意見交換

(3) 令和6年度の取組報告について

■避難情報の提供について

- **（長浜市）** 根拠のない安全神話を滋賀県民は持っており、自分の住んでいるところは大丈夫と考えている。避難情報を発令してもこれまでの経験から安全と思われ逃げただけがないという実情がある。市でも出前講座や防災マップを全戸配布するという対策はしているが、どうすれば市民の心に伝わるか。空振り覚悟で出しているが、空振りしすぎると狼少年になるので、悩みどころである。
- ⇒ **（多々納教授）** 切迫感が伝わるような情報提供が必要である。住んでいるところの川の状況が伝わるように水害でも津波の様なシミュレーションができないか。スマートフォンの防災アプリで逃げトレというものがあり、津波を想定した避難訓練ができる。津波だと切迫性があるので訓練しやすい。また、避難のオプションを増やす必要もある。ペットがいるだけで避難していいのか躊躇する方もいる。垂直避難が可能、避難が必要な区域をしぼる、など切迫性を持った状況での情報提供が重要である。
- ⇒ **（流域政策局）** 県政モニターのアンケートで避難の支障となっていること等を調査している。また、防災アプリの開発も進めている。避難情報の提供方法の検討の際の参考にしていきたい。

■河川整備について

- **（長浜市）** 地元に行くと河川整備の要望をよく言われる。県の方で色々な河川整備、土砂災害対応をいただいている。長浜市内については、姉川、高時川でまだまだ整備が追い付いていない部分があるかと思う。姉川・高時川の合流点より下流部は、目に見える

形で河川が整備されているので、地元の方も安心されているところかと思うが、まだまだ上流まで長い距離がある。基本的には下流から整備するという鉄則があるが、中上流部についても引き続き土砂撤去や竹木の撤去等の維持管理も含めた河川整備をハードとソフト両輪で対応いただきたい。

■特定都市河川法の実施状況について

- **（米原市）** 昨年度、滋賀県流域政策局から米原市に対して天野川の特定都市河川法の説明があった。また、馬上地区自治会に対しても特定都市河川法の説明を実施したと聞いている。特定都市河川の取組状況について教えてほしい。また、他の都道府県の特定都市河川の指定状況を教えてほしい。
- ⇒ **（流域政策局）** 高時川の特定都市河川の指定について、長浜市と協議しているところ。米原市とも引き続き天野川の特定都市河川の指定について協議していきたい。
- ⇒ **（近畿地方整備局）** 近畿では奈良県の大和川、大阪府の寝屋川・芥川、和歌山県の西川でも特定都市河川が指定されている。
- ⇒ **（流域政策局）** 国全体で特定都市河川に指定して治水関連予算を重点的に入れていく流れがある。そのため、天野川、高時川について引き続き協議したい。

■姉川ダムの緊急放流について

- **（長浜市）** 姉川ダムについて、降雨中になぜ放流するのか、との問合せがある。洪水調節方式等運用方法について、一般の方にはなかなかご理解いただけていない。どのように周知すればよいか。また、琵琶湖の水位について、琵琶湖も広い意味でダム機能があると考えている。琵琶湖の水位が上がると、琵琶湖付近の川の水位が下がらない。大雨が降ると国で水位を下げる措置をされるが、事前に水位を下げる高時川等の河川で水はけが良くなる。下流との調整が難しく、なかなか下げられるものではないという理解はあるが、検討していただきたい。
- ⇒ **（流域政策局）** 緊急放流がニュースで取り上げられてから注目されている。ダムの洪水調節方式等運用方法についても住民の方に理解いただけるよう広報を検討していきたい。
- ⇒ **（多々納教授）** 姉川ダムでは事前放流していないのではないかと。緊急放流する場合、どのエリアの方が避難する必要があるのかの議論と分けて説明が必要である。
- ⇒ **（流域政策局）** 姉川ダムにおいても事前放流している。自然調節なので異常洪水防災操作はないが、ダムの非常用洪水吐と呼ばれる越流部から越流が起こりそうという時には、緊急放流と同等の対応をすることとなっている。その場合、どの程度被害が出るのかについては浸水想定区域をホームページで掲載している。
- ⇒ **（琵琶湖河川事務所）** 琵琶湖の事前放流は過去に検討していたこともあるが、天ヶ瀬ダムの治水容量を確保するために事前放流を行っており、琵琶湖からの放流量を増やすと天ヶ瀬ダムの事前放流に影響が出ることになり、さらに先を読んで琵琶湖から放流しないといけなくなる。ダムよりもはるかに琵琶湖の容量の方が大きく、2、3 日前の放流となると渇水のリスクもあり、あまりにも影響が大きい。4 月から 6 月に関しては、魚類が産卵行動をするということで水位をできるだけ高めに維持する試行操作を行っている。雨が降ると心配されるところがあると思うが、生物の繁殖行動にも配慮しながら検

証していきたいと思うので、ご理解いただきたい。

■要配慮者への取組について

- **（多々納教授）**昨年度の協議会でも意見したが、要配慮者の取組について、防災、治水、福祉、気象台などの各機関が連携して対応してもらいたい。集まって議論いただく場所があればいいと思うので今後検討いただきたい。
- ⇒ **（流域政策局）**市とも連携し重点地区において浸水警戒区域の指定を進めている。指定済み地区では、防災危機管理局と連携し、マイ・タイムラインの作成を進めている。気象台とも連携して取組を進めたい。

（４）その他情報提供

① 令和６年度大雨時の米原市の対応状況

② 豪雨災害に関する意識についてのアンケート結果について

- **（多々納教授）**避難できない理由の中に避難所での生活への抵抗感がある。こういうことがわかれば対応の仕方が検討できる。これを参考にして地域ごとの取組と合わせて報告できれば良い。

③ 中小河川の「洪水浸水想定区域図」と「地先の安全度マップ」の公表について

④ 滋賀県防災アプリの開発について

- **（多々納教授）**防災アプリはいざとなった時しか使わないものではなく、普段から使えるアプリにすることが重要である。普段から使用し、地先の安全度マップのデータを利用して、避難訓練やその評価を盛り込めるとよい。
- ⇒ **（流域政策局）**避難訓練で活用されるように訓練モードを搭載予定である。避難訓練の評価機能については、今後の更新の際に検討したい。

以上